

令和3年度 授業改善推進プラン 教科名（英語）

<p>学習状況と 課題分析</p>	<p>本校の生徒は、おおむね英語の授業に対する関心が高く、授業にまじめに取り組む生徒が多い。また、多くの生徒は小学校での外国語活動の経験により、入学時点で簡単な単語の羅列によってある程度のコミュニケーションができる。 より高度な英語力を身に付けるために、語彙や文法など基礎基本の定着を進めるとともに、聞き手、読み手を意識した言語活動を行っていく。 授業内での活動に加えて、家庭学習の習慣化をはかり、習ったことを繰り返し練習し、自分の力として定着させようとする態度を育成することは、重要な課題である。</p>	
<p>授業改善に向けての取組</p>	<p>基礎基本の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、本時の流れと授業のねらいを明確にし、生徒が見通しをもって取り組むことができる環境を整える。 ○新出事項の導入、例文の提示には、ICT 機器などを活用し、生徒にとって身近な題材や単語を使用し、使用場面を容易にイメージできるようにする。また、生徒が英語を使う必要性を感じられるように場面設定を工夫する。 ○毎時間、短い会話文や、語彙、文法の定着を目指した言語活動を取り入れ、基礎的な学力の定着を目指す。 ○定期的に家庭学習の課題を設定し、取組の様子や成果について確認する機会を設ける。音読練習や教科書準拠のワークブックを中心とし、授業の復習ができるようにする。
	<p>主体的・体験的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新出事項の導入においては、それが使用される自然な場面設定の中で言語活動を行い、習った表現を使用させ、スムーズに習得する機会をもたせる。 ○簡単な会話文や教科書本文を定着させることから始め、発展的な言語活動につなぐよう3年間を見通した取り組みを行う。 ○スピーチ、会話、インタビューなどの言語活動に取り組ませるなかで、聞き手を意識しながら自己表現する機会を設ける。 ○感染症対策に留意しながらも、できる範囲で積極的にグループ、ペアでの学びあいの機会を設ける。 ○来年度から実施予定のスピーキングテストにも対応できるよう、ペアでのやりとりに関する活動を積極的に扱う。
	<p>個に応じた指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度を考慮した少人数授業の利点を生かし、生徒一人一人の到達状況をより細かく把握し、個別の状況に応じた声かけをする。また、生徒一人あたりの発言回数や発話の機会を増やす。 ○新出事項の導入時など、ICT 機器や自作ワークシート等を活用し、生徒自らが理解度を自覚し、自己評価できるよう工夫する。
	<p>評価について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい評価規準に則り、3観点、5領域について適正に評価する。特に「話す」能力については、スピーチによる「発表」やインタビューやペアでの会話による「やりとり」に分けてパフォーマンステストを実施する。